

1. 埼玉県の拉致被害者—拉致事件の具体例

1.1 田口八重子さん

川口市出身。1978年東京高田馬場のペビ一ホテルに2歳半と1歳の幼児を預けて池袋で働いていたが、6月子供達を預けたまま失踪。当時22歳。



一枚だけ残されたお子さん達と一緒に写る田口八重子さん（左端）の写真

1987年11/29大韓航空機が日本人旅行者を装った北朝鮮の二人の工作員により爆弾をしかけられ墜落した事件(ソウルオリンピックの妨害と日韓の離間が目的と言われる)で犯人の女工作員(金賢姫)の証言により、工作員を日本人にすりかせるための教育係を日本から拉致された女性(李恩恵)がやらされていたことが判明

2001年埼玉県警が李恩恵が田口八重子さんであることを発表した。

金賢姫は田口さんについて、日本のどこかの港から北朝鮮の船で拉致されてきたこと、途中船酔いが酷く、何日も食べられず北朝鮮に着いた時には昏睡状態であったこと、子供達や家族を想いよく泣いていたこと等を伝えている。

((北朝鮮の不誠実))

1991年第3回日朝国交正常化交渉で李恩恵について日本側が取り上げるが北朝鮮は「憤って」席を立つという挙いで、以後日本は正式議題に挙げることができず、結局翌年の第8回交渉の作業部会で再度取り上げた所交渉は打ち切られる。

2002年の小泉訪朝により金正日氏がそれまで否定してきた日本人拉致を認める(9件13名)が金賢姫の教育係李恩恵の存在は認めていない。北朝鮮は田口さんは1986年交通事故で死亡したとし、また「観光をしたい」と言うので宮崎県青島海岸から船に乗せたと主張するが、幼い子供達を放りだしたまま青島海岸に行く理由も北朝鮮に旅行に出かける理由もない。死亡を裏付ける客観的証拠は無く、北朝鮮が寄越した死亡証明書は他の拉致被害者のものと押印部分が同一つまり押印した原紙をコピーした上で名前等を書き足したものである。北朝鮮の担当官は、横田めぐみさんの死亡証明書において死亡日時記載が、帰国した拉致被害者・蓮池薫さんの証言と矛盾することを日本側から指摘された際、日本の担当官に求められてその場でこしらえた「公文書」であることを平然と認めている。

1.2 埼玉県出身の特定失踪者 13名(公開)



- (お名前 失踪時年齢 失踪日時 失踪場所)
- 種橋昭子さん (21) 1965. 6. 8 朝霞市
 - 井上克美さん (21) 1971. 12. 29 川口市
 - 鈴木賢さん (23) 1972. 5. 28 三芳町
 - 石井久宏さん (29) 1974. 5. 1or2 川口市
 - 藤田進さん (19) 1976. 2. 7 川口市
 - 新木章さん (29) 1977. 5. 21 川口市
 - 今津洋子さん (27) 1985. 4. 30 深谷市
 - 佐々木正和さん (37) 1987. 11月末 大宮市?
 - 江原信明さん (28) 1988. 5. 9 白岡町
 - 矢島克己さん (24) 1989. 8. 26 北海道網走市
 - 佐々木悦子さん (27) 1991. 4. 22 浦和市
 - 小野寺将人さん (24) 1991. 7. 19 北海道富良野
 - 水嶋弥寿志さん (39) 2003. 4. 22 蕨市

(写真左から右へ、なお後述の渡辺秀子さん、高敬美ちゃん、高剛ちゃん母子は失踪時上福岡市(現ふじみ野市)に居住していた。)

藤田進さん、新木章さん、佐々木悦子さんは脱北者による北朝鮮での目撃情報等、複数の証拠を検証して拉致の可能性が極めて高いと判定される調査会の1000番台リストの登録者である。藤田さんを例にとれば、脱北者が北朝鮮から持ち出した写真の人物が藤田さんと同一人と鑑定され、さらに千葉の西新井病院の施設に監禁されていた藤田さんを車で糸魚川まで運んだという証言もいる。

警視庁は一昨年10月『薬事法違反』でこの病院を自宅捜査までしたが、藤田さんの拉致の認定はされなかった。証言の検証ができなかったということであろうか? 政府の拉致認定は非常に「慎重」であり、これでは被害者を助けられないとの批判が有る。

特定失踪者古川了子さんの家族が拉致認定を求めた民事裁判を2年間闘い、今年4月国と和解という形で決着をした。これは実質特定失踪者を代表しての申し立てであり、国の救出・真相究明への取り組みを促すものであった。和解に至った背景に拉致問題に熱心な安倍総理の意向があったとも言われるが、逆に総理の意向があっても拉致認定は容易に進まないという現実を示すものでもある。

* 特定失踪者とは

日本政府が拉致被害者と認定していないが、北朝鮮による拉致の可能性のある失踪者。

H14年の小泉訪朝により5人の拉致被害者が帰還を果たしたが、その中の1人曾我ひとみさんは日本国内で警察も救う会も拉致被害者と把握していなかった。ここに想定していた以上の拉致被害の存在が示唆され、実際に国内各地から原因不明の肉親の失踪に苦悩していた家族からもしや自分達のケースも北朝鮮による拉致ではないのか? という疑問の声が数多く出て来た。

そのような状況に対応して救う会全国協議会の失踪者調査部門が分離独立『特定失踪者問題調査会』を立ち上げたことによりこの名称がある。

現時点(H19年8月)特定失踪者の総数は470名を越えその内公開リスト記載者は約260名を数える。更にその中で北朝鮮による拉致の疑いが濃厚とされる1000番台リストには35名が登録されている。

2. 拉致事件の広がり

2.1 政府認定拉致被害者 12件17名

- (お名前 被害時年齢 被害日時 被害場所)
- ①久米裕さん (52) 1977. 9. 19 石川県
 - ②松本京子さん (29) 1977. 10. 21 鳥取県
 - ③横田めぐみさん (13) 1977. 11. 15 新潟県
 - ④田中美さん (28) 1977. 10. 21 兵庫県
 - ⑤田口八重子さん (22) 1978. 6. 29 不明
 - ⑥地村保志さん (23) 1978. 7. 7 福井県 (旧姓濱本) 富貴恵さん (23)
 - ⑦蓮池薫さん (22) 1978. 7. 31 新潟県 (旧姓奥土) 祐木子さん (24)
 - ⑧市川修一さん (23) 1978. 8. 12 鹿児島県 増元るみ子さん (24)
 - ⑨曾我ひとみさん (19) 1978. 8. 12 新潟県 曾我ミヨシさん (46)
 - ⑩石岡亨さん (22) 1980. 5月頃 欧州 松木薫さん (26) 1980. 5月頃 欧州
 - ⑪原教晁さん (43) 1980. 6月中旬 宮崎県
 - ⑫有本恵子さん (23) 1983. 7月頃 欧州

2.2 救う会独自認定等の拉致被害者

- (お名前 失踪時年齢 失踪日時 失踪場所)
- 寺越昭二さん (36) 1963. 5. 11 石川県
 - 寺越外雄さん (24) 1963. 5. 11 石川県
 - 寺越武志さん (13) 1963. 5. 11 石川県
 - 加藤久美子さん (22) 1970. 8. 8 北九州市
 - 古川了子さん (18) 1973. 7. 7 千葉県
 - 福留貴美子さん (24) 1976. 8月頃 海外旅行中
 - 小住健蔵さん (45) 1980年頃 不明
 - 渡辺秀子さん (32) 1973. 12月頃 東京都
 - 高敬美さん (6) 1973. 12月頃 東京都
 - 高剛さん (3) 1973. 12月頃 東京都

* 政府認定の条件

1. 北朝鮮の国家的意思が推認される
2. 本人の意思に反する
3. 北朝鮮に入国した

2.3 世界各国からの拉致

- 韓国人 (朝鮮戦争中) 82959人 (朝鮮戦争後) 489人
- 日本人 (政府認定) 17人 (推定) 100人以上
- レバノン人 4人
- タイ人 1人
- ルーマニア人 1人
- 中国人 (マカオ系) 2人
- マレーシア人 4人
- シンガポール人 1人
- フランス人 3人
- イタリア人 3人
- オランダ人 2人
- ヨルダン人 1人

* 何故北朝鮮は外国人を拉致するか?

- 以下のような理由が言われている。
1. 工作員の日本人化教育のため。本人を直接工作員にしたこともある。
 2. 工作員の配偶者とするため。
 3. 北朝鮮の工作活動に遭遇したため。
 4. 工作員が韓国人になりましたため。
 5. その他、韓国から映画監督夫妻を映画作りのために拉致したこともある。特定失踪者問題調査会によれば、印刷技術者、看護師など特定の技術を持った人が特定の時期に集中して失踪する傾向があるとされる。

3 日本の対応—なぜこんなに長い間解決しないのか

◎警察が(政府)見捨てた10年

政府認定被害者が一番早く拉致された久米裕さんの事件は『宇出津事件』と呼ばれ、久米さんを騙して海岸まで連れ出し工作船できた北朝鮮工作員に引き渡した北朝鮮人二世がその直後に逮捕されていることでよく知られている。

しかしこの犯人は「出国時の意思」を久米さんから確認できていないことを理由に起訴は見送られ不処分のまま釈放されている。

『宇出津事件』のみならず警察は少なくとも1978年に4件のアベック拉致事件(1件未遂)が日本の海岸で発生したことを把握していた。工作船の動きとその発する暗号無電から北朝鮮による事件だと判っていたというのだ。(H14. 12. 20読売新聞夕刊) 拉致事件を知っているながら発表もせず見殺しにしたのである。もし、宇出津事件が発表されていればその後の事件は未然に防げたかもしれない。また、事件の解決も容易だったのではないだろうか。

では何故警察は事件としなかったのだろうか。「北朝鮮がらみの事件が起こっても事を大きくしてはならないような風潮があり(北朝鮮に限らず「国際問題化」することがタブーとされた)」「南北統一の動きの妨げにはいけない」「無電の傍受をしていることを秘密にしたかった」等々言われている。一方で当時今も「スパイ防止法がなく、実際数十名の工作員が逮捕されているが皆容疑は外国人登録法違反等で量刑は懲役1年、執行猶予4年でしかない」こと=警察は足枷を嵌められた状態であることも重要な要素であろう。

◎マスコミ、知識人、外務省そして政治が見捨てた10年

転機は1988年に訪れた。大韓航空機爆破事件により、李恩恵=田口八重子さんの存在が明るみにで、韓国で逮捕された工作員辛光洙(シンガム)の自供により原教晁さんの拉致が明らかになったからだ。

1988年参議院予算委員会で梶山静六国家公安委員長が10年前の3組のアベック拉致事件が北朝鮮による拉致であったと答弁した。しかしながらこの「梶山答弁」はマスコミに無視されてしまう。外務省は「警察の問題、所管ではない」とし、有本恵子さんの両親には「騒ぐと、却って娘さんの身が危ない」と口封じをした。

1990年金丸訪朝団に参加した自社各党の代表は現在一様に「拉致は知らなかった」と述べている。少し後、横田めぐみさんの拉致が明らかになった後のこととなるが、与党政治家や外務省高官は「拉致問題10名の被害者のために日朝交渉が始まらないのは困る」と言い、野党や大学教授などは「拉致問題は食糧支援をしたくない日本政府がでっち上げたもの」と述べていた。それ以外にも法務省の人権擁護局も日弁連の人権擁護委員会も日本赤十字社も被害者家族の訴えに動くとはしなかったのである。

◎1997年以降 国民が××××年(既に10年。小泉訪朝からも既に5年)

再度の転機が1997年に訪れる。韓国に亡命した元工作員安明進氏の証言により、横田めぐみさんの拉致事件が明らかになったことだ。13歳の少女ということ、横田家が匿名報道に同意した英断もあり、家族会ができた支援組織ができ、小さな署名活動を始め…昨年漸く拉致問題の解決は政権の最重要課題という「当たり前のこと」を語る安倍総理が誕生した。一部に安倍総理の拉致への取り組みを人気取りと批判する人達がいるが、拉致問題への取り組みが人気が取れるのであれば他の政治家が安倍総理以上に熱心な取り組みをすれば良いことである。

※警察が悪い、政治家が悪い、外務省が…と書き連ねたが、何が悪かったのか、何処の責任であったかが真剣に問われるべきであろう。勿論、誰が悪いというのは違うのではないかという声もあるであろう。「時代の空気であった」これは一面の真実である。煎じ詰めれば「政治のレベルは国民のレベル」でしかない。

しかし、悪者探しではなく、過ちを繰り返さないためにどうあるべきであったのかを考えられるべきなのだ。例えば拉致事件を反省して、スパイ防止法が必要である、という議論がなされたであろうか? 時代の空気だとして「だってしょうがないじゃない」こう思考を停止するから「10数人の拉致問題よりも、国民全体の安全に係わる核問題の方が大事だ」と語る政治家が出てくるのではないのだろうか?